

R18
Adult only

FUWA
MOFU
Collection*



Full color
Original Comic
あめのちゆき 総集編



PREFACE

はじめまして、こんにちは！
あめとやきです
この本をお手に取っていただき
ありがとうございます☆
新作描きおろしは収録のエクリュさん本の
後日談のいっしょにお風呂のお話です(* ˘ ˘ *)
最初のほうはちょっと昔のなので絵柄が結構違って
はかしいですが、看板娘たちの初登場のときを
載せたくて収録してみました。
楽しんでいただけたらうれしいです…！

エクリュさんと一緒にお風呂♥

今日は寒いのも一緒に入るのも楽しそう♪

エクリュさんのお風呂は最近半増えのなつが棲んで

本当に一緒にお風呂に入ってくれるなんて

お待ちせ
しました…♥

たゆんっ♥

ブルっ

そういうことは後でゆっくり…ね♥
先に背中流してあげますね

ガッ

どこ見てるんですか？

もう…！

そんな…エクリュさんの身体で洗ってほしいな

ごめんやっ目がついて

えっ?! 私…?

ドキ

ドキ



どうですか...?

はあ♡



こ...これでもいいんですか?

ん♡

ふ♡

はあ♡

ふにゅ♡ ふにゅ♡♡

やわらかいのが背中に...



ん♡

はあ♡

身体ぬるぬるで...
何だか変な気分になっちゃう...♡

ああ...
最高だよー
エクリュさんに
こんなこと
してもらえるなんて

びん♡

びん♡

ヌル♡

ヌル♡♡



ふふっ♡
ここもキレイに
してあげますね♡

俺もエクリュさん
来ていたからかな？

ささすよ...

ヌル

たふん♡

しゅこ

しゅこ♡

ムニゅ♡

ヌル

ヌル♡



もう...さっきから
おっぱいばかり
洗って...♡

あ♡

くり♡

ムニゅ♡

ん♡



私も身体が
熱くて...
もつとエッチな
こと...して...♡

ちゅ...

ちゅ♡

はま♡

はま♡



こすれてっ♡
どんどん固く
なつてきますね

ん♡

はま♡

ぬる

ぬる

エクリュさん
俺...!



え?!
はら

ぐわ!!

あ

びん

もつと
恥ずかしい事
すれば気に
ならなくよ
なるかもよ
お尻見せ?

ぐわ



びん

パパン
ンン
ぐわ
ぐわ

あら

びん

こんな
さらなら
もう...

イ

これ
奥まで
きちやう



ふっふっ!!

エクリュ...
出すよー

あーっ
あーっ
あーっ

ガクッ

ヒク ヒクッ

あーっ
あーっ
あーっ
あーっ

ガクッ
ガクッ

ちゃっ
ぽっ

そのときは
また...♡

あったかい
温泉に行くのも
いいですね...

PREFACE

『100号室のネコ』

2012年9月発行

初の完全オリジナル本はマカロンさんのフルカラーイラストノベルでした！
このころから比べるとマカロンさんは成長した気がします(*´ω`*)
きつとごしゃじんさまに美味しいものをいっぱい食べさせてもらってるんだと思います…！

初めてのオリジナルという事でいろいろと試してみたくてエロゲのような小説とイラストが合体したものにしてみたい、挑戦な1冊でした！
その後いっぱい描くことになったマカロンさんの初登場シーンを見ていただければと思います☆

R18
成人向け



あめのちゆき / あめどゆき
フルカラーイラストノベル

イチマルゼロ 号室の ネロ





もぐ

もぐ

もぐ

俺、佐藤コウが引越してきたマンシオンには
「ちよ」と変わった野良猫が棲みついてた。

見た目は少女だがどうやら突然変異した
コト型の猫シマ。

マンシオン(木下)の1000年前
(猫はそう呼んでるがその部屋番には無い)
に住んでるさうだ。

猫好きな俺は時々餌をあげていた。
初めは俺のパンを奪っていったが、
数日間待てないさうすにだんだん
なつくようになってた。

猫「おなかすいた〜餌くれ」
今では向こうから餌を求めてくるおまじに
なつたさうだ。

佐藤「さう…今これしかないけどいいか？」
俺はせがまれて反射的におやつを噛みこめた
マカロンを渡してしまつた。

猫「うん…おまんこ…」
佐藤「おやおやおや…」

佐藤「さういふ…まださうして
名前つけなかつたさう…」

野良猫なので名前はまだ無く
マカロンをこもえに入れたみたいなので
俺は勝手に「マカロ」と名付けた。
佐藤「ちよ、今日からオマエはマカロだ。
俺は佐藤コウだ…ちよ〜」



マカロン「……………」

佐藤「マカロン、もう少したけ……」

マカロン「お、お、お、お……」

マカロン「んんん……んんん……」

俺はマカロンの甘い香りに感情が……

マカロン「強……」

マカロン「……」

俺だけは……

乳首へと……

マカロン「……」

紙……

あ……

佐藤「マカロンが……」

……

指先がマカロンの股間に……

……

マカロン「……」

……

……

……

……

俺の中に特別な感情が芽生えはじめていた。

マカロン「……」

……

……

マカロン「んんん……んんん……」

大きな声をおげマカロンは……

佐藤「俺……マカロンと最後まで……」

俺はもう……

ビクンッ

ビク!

あんっ
あ
あ
あっ♡
あっ♡

ビク

ジュジュ

ジュジュ





To be continued...?

佐藤「うん...ままだ...」

「気がついたときにはもうすっかり昼になっていた。

佐藤「やはり！バイトに遅れる！」

急げば間に合う時間だったが、ギリギリだった。

マカロン「んん...行っちゃおうっ！」

佐藤「あ...夜までには戻ってこなきゃダメ

それまで...にないかっ！」

オレが出かける準備まで...」

マカロンも起きこきました。

マカロン「餌を探して...」

お腹空いてるから...」

（むむ...もしマカロンが他の人に餌付けされたら

何かさっさと食べよう）」

佐藤「え...腹がすいてるんだっ！」

また甘いものでも食べようか...」

マカロン「わー...ありがと...」

マカロンは嬉しそうに耳がぴょんぴょんと立ち

目をキラキラ輝かせた。

佐藤「じゃあまたおとなす！」

マカロン「んん...」

「んん...もういっしょに食べよう！」

佐藤（んん...うん...うん...うん...うん...うん...）

このまじりと変わった「猫」に、

俺はすっかりなつかれてしまったようだ。

■洋服ボツデザイン案→



■2012/03 みみけ用イラスト↓



イチマルゼロ
100号室の
ネコ

■マカロンについて。

2012年3月のみみけっとにて描いたステポの猫耳っこが
意外と気に入った感じだったので、この子をヒロインにお話を
かいてみたいと思ったのがきっかけです！

初めて描いたときにマカロンを持っていたので、マカロンが好物という
設定に・・・そしてマカロンという名前になりました・・・そのままずわわ
お洋服もいろいろ考えてみました～オリジナルのキャラデザはすごく
なやむけど楽しいです(*´▽`*)



PREFACE

『チョコミントな猫』

2012年11月発行

チョコミントさん初登場の本です！
マカロンさんのお友達になるチョコミントさん
ですが、初登場は秋だったんですね・・・
なんとマカロンさんの2か月後に新刊出して
いるという！どういう刊行ペースだったんだろうと
昔の自分におどろきです（´□`。）

こちらもかなり前の本なので、いろいろと
違っていますがチョコミントさんの歴史として
楽しんでいただけたらうれしいです><

あめ のち ゆき / あめごゆき
フルカラーイラストノベル

チョコ ミントな猫

R18
成人向け



俺は佐藤コウ。
ちよっと変わった野良猫、
マカロンが住むマンションに
引っ越してきた高校生である。
佐藤(またいる……)
バイトの休憩中は近くの
さびれた公園で時間をつぶすのが
日課なのだが、そこにはいつも
無表情でベンチに座っている
ヒト型の猫がいた。
(見た目は可愛いけど……
なんか不思議な猫だな……)
俺が近づくと、気配に気づいたのか
俺をじーっと見させた。
猫「……」
佐藤「……」
猫はチラッとこちらを見れば
何か言いたそうにしている。
猫「それ……おいそう……」
どうやら俺が食べていた
季節外れのチョコミントアイスを
見ているようだった。
佐藤「お腹空いているのか?俺が
食べられるのですか?」
猫「ありがと……」
そういってペロペロもしゃもしゃと
食べ始めた。
(ちゃんとお礼をいうところに
違いを感じるな……)
俺は不意にマンションに住んでいる
マカロンと比べてしまった。
佐藤「そう言えれば名前
まだ聞いてなかったな……
俺は佐藤コウっていうんだけど
君は?」
猫「……チョコミント」
それは今食べている物なんじゃ
ないか……?
と疑問に思いつつも、
そういう名前なのだと思う事にした。



あせ、

?

ちよこ

食べ終わると、チヨコはまたぼーっと遠くのほうを見はじめた。(何を思っているんだろう……)とくに話すこともなかったので、俺も隣に腰掛けて一緒に遠くを見ていた。いきなりチヨコが俺の前に立った。佐藤「……どうしたのか?」チヨコ「お礼……するから」そう言うとチヨコは俺の膝に乗って抱きついてきた。佐藤「ちよこと待て……!」どうしてこうなった……!突然の行動に俺は驚いてあたふたしてしまった。身体の小さいチヨコは膝に乗っても軽く、女の子らしい甘い香りがした。チヨコ「……どうしたの?」そこに落ちた雑誌に書いてあったことをしようと思ったんだけど……佐藤「いやいやいや!違うから!どこから?」こんなでいいのかわからない……。ヒト型の猫たちの思考はいまだに俺の理解を超えた部分がたくさんある。チヨコ「お菓子くれたから……身体でお礼しないと……」その雑誌に書いてあったことはエッチな内容だったことは明らかだった。雑誌を読んで内容を覚えることができた。チヨコは利口な猫のようだが、どこかが確実にずれているようだった。佐藤「身体……そこまでしなくても喜んでくれただけで十分だから!」何がいけないのかと言わんばかりにチヨコは首をかしげていた。



だれも見えていないのを良いことに、俺はチョコ「ミン」のチープを外し、胸元を広げ素肌をさらけ出した。チョコ「ミン」の胸は小ぶりながらもプニプニした確かな弾力があつた。チョコ「ミン」「んっ♡……あ……不思議……コウに触られると身体が熱くなつてくる」
小さな乳首を指で転がしてみると、びくっとして身体を震わせ反応する。チョコ「ミン」「ふあっ……コウ……あつと私のおっぱい触つてる……そんな感じのっ」
佐藤「ああ……おっぱいもいいけどこども……」
そつと重量なものを触るまじつに慎重にチョコ「ミン」の股間に手をすべらせてこつた。
チョコ「ミン」「あ……ん……触られると……何かもつと変にっ……んにやっ」
初めての感覚に驚いたのか、急にチョコ「ミン」の全身が反応した。佐藤「こがチョコ「ミン」の身体を一番温かくしてくれるところだよ……」
まだ十分に言葉をきいていないチョコ「ミン」の股間にズボンの中の俺の硬くなったモノをこすりあてた。チョコ「ミン」「コウの私のと違つ……なんかコウコウして……」
佐藤「そうだよ……でも猫にはもつと温かくなる場所があるんだよ」
チョコ「ミン」「ひゃうん……しっほは……しっほは……ふにやあ」
しっほを触つたとたんチョコ「ミン」は全身の毛が逆立つくらいに反応し、可愛い声で鳴きだした。
佐藤「ヒト型猫はこが弱いっつのは知つたけど、
こどもでは……チョコ「ミン」は特に敏感なのかなっ」
チョコ「ミン」「コウ……私ばかりするのはいや……」
チョコ「ミン」に触つていた俺、俺も限界になつて来た。



佐藤「俺も・ちょコミントと一緒に気持ちよくなりたい・・・」

佐藤(でも、こんな古いベンチの上で動いたらベンチを)

壊してしまいたいぞうだ・・・)

戸惑っているちょコミントがスクッと立ちあがった。

ちょコミント「・・・こうすれば

・・・入れやすい？」

佐藤「えっ・・・？」

なんとちょコミントはベンチに

手をあて、大胆にも可愛い尻を露出し俺のほうに向けってきた。

雑誌を読んだこととその通りに

してみているつもりなのだろうが、

実際やってみると恥ずかしいらしく、

いつもは無表情なちょコミントが

頬を真っ赤に染め、目を潤ませていた。

佐藤(くっ・・・白眉堂々

バックでするなんて・・・)

佐藤「・・・それじゃ・・・いくよ・・・」

背德的すぎるシチュエーションに

興奮で声が少し上擦ってしまった。

ちょコミント「うん・・・きこ・・・」

ちょコミントの背後から覆いかぶさり、

やっくりと割れ目の中に押し入れる。

ちょコミント「んっ・・・コウの・・・

あつたかい・・・あふっ」

佐藤(ふっふっ！からみついてくる・・・

入っただけなのに・・・)

トロトロで力強く締め付けてくる！

何かを裂いたような感覚の後、俺の

モノはぐちゃぐちゃという音とともに

ちょコミントの大切なところへ

おさまった。

ちょコミント「ふっふっ！ふっ！

はあっ・・・はあっ」

華奢で小さな身体には大きすぎる

俺のモノを受け入れて、ちょコミントは

少しきしきしと尻を振り返る。



しばらくベンチでぐったりと
寄り添って余韻に浸っていた
俺とチョコミントだが、
時計を見るとちようど休憩時間が
終わろうとしていた。

佐藤「えっと…俺…そろそろ
バイトに戻らないといけないんだ」
チョコミント「……」

戻るという言葉に少し反応した
みたいだったが、視線は相変わらず
どこか遠くのほうを見ていた。

チョコミント「コウがしてくれたこと
ともうれしかった…
また来てくれる？」

佐藤「えっ？」
振り向くと少し頬を赤らめながら
こちらをじーつと見ていた。

「そっか…俺がいなくなると
チョコミントはまた一人に
なっちゃうからな」

佐藤「…ああ！当たり前じゃないか！
お菓子とかも持ってくるよ」
チョコミント「うん。」

チョコミントの顔がほころんだ。
チョコミントが笑顔らしい表情を
見せるのは初めてだった。

佐藤「…普段とのギャップで
余計に可愛く思えてしまう」
佐藤「住んでる場所も近いから、
公園じゃなくても見かけたら」

遠慮なく声をかけてくれ」
チョコミント「わかった…そうする」
「

そうして俺はチョコミントを
撫でてから、バイトに戻るために
公園を後にした。

佐藤「明日はバイトがないけど、
行ってみてもいいかな…」
ここでの楽しみが増えたことが、
俺は素直に嬉しかった。



ハッピー
ミー

バイトから帰ると俺の部屋に
異変が起きていた。
佐藤「ただいまー」
マカロン「おかえりーごじゃいんさま」
チヨ「ミンント「おかえりなさい」」
佐藤「……」
佐藤「なんか増える……」
「さっきまで公園にいたチヨ「ミンント」が
俺の部屋にいた。」
佐藤「どうしてチヨ「ミンント」が
ここにいるんだ？」
公園にいたはずなのに……」
チヨ「ミンント「あの後「チヨ」を
つけて……先回りした」
マカロン「ごじゃいんさまのともだちー？」



「ゴロ」

「ゴロ」

どうやらマカロンに説明しているが困っているよ、チョコリントがすり寄ってきた。チョコリント「リウとすっいたいから……」

ここにいることに決めた」マカロン「うむ、許可する！いつお出かけ」

マカロンが先にここに来たんだから、マカロンのことは先輩とよぶこと……」急に先輩風を吹かせはじめたマカロンだが、

チョコリントは「くっ」とうなずいた。佐藤「おっ」と待て……」

俺はまだだにも言っていないぞっじいつも俺をどうしようなのだが……マカロンも遊び相手ができて嬉しそうにしているよ、

チョコリントの可愛さにすっかり「気を許してしまっている自分がいた。佐藤「おし……入居祝いに食べ物を用意するから少し待てろよ……」

甘い物なら何でもいいのかっ」チョコリント「……うん」

マカロン「マカロンが……」準備せしに行こうとしたが、チョコリントが「おっ」と俺の裾をつかんできた。

佐藤「どうした？やっぱりさっきあげたチョコリントのほうがいいのかっ」チョコリント「おっ……おっ……」

公園でこられたことを……またしてくれるとうれし」チョコリントは頬を赤くして

マカロンに聞こえない声で囁いた。佐藤「……」

このちよつと変わった「猫たち」に俺はさらに懐かれましたよ。ようだ。

★おわり★

PREFACE

『NEKOMAMIRE』

2013年6月発行

マカロンさんとチョコミントさんが住み着いた
お家でのお話です！
女の子のかわいいパジャマ姿とか寝てるところが
好きなので、そんな感じのシーンが多めです

ねこまみれになりたい……と思いつつ
猫たちともふもふ楽しく暮らしたくて
描きました(*´ω`*)

マカロンさん本からずっと、ゆるく続きもの
なっています♪

あめ のち ゆき / あめとゆき
フルカラーイラストノベル

ADULT ONLY
R18



NEKOMAMIRE



俺は佐藤コウ。
二匹のちよつと変わった猫たちに
懐かれ、一人暮らしの部屋に
住み着かれて
しまった学生である。

俺のバイトが終わった後はみんな
夕飯を食べるのが
すっかり日課となっていた。

夕飯の片付けをしている間に、
二匹は遊び疲れたのが
仲良く一緒に丸まって眠って
しまっていた。

マカロンはフトンからはみ出して
寝ているのに対し、チョコミントは
静かに寝息をたてていた。

マカロン「もにゃむにゃ...もぐもぐ」
チョコミント「すーすー...」
コウ(ずいぶんよく寝てるな)
猫だからヒトより沢山寝るのか?)

二匹のかわいい寝顔をずっと眺めて
癒されるのもよかったが、
明日は朝早いので俺も寝ることにした。

コウ(明日は学校もバイトもあるし、
早目に寝ておくか)



陽が昇り始めたころ、妙な感触がして目が覚めました。
 コウ「ん？なんか股間があたたいかい...」
 チョ「コミント「ちゅぽ...んっ♡」
 ...あつ...おはよう...」
 コウ「...チョココミント？」
 朝から何を...うっ？！」
 チョ「コミントが俺の大きくなった下半身をペロペロしていた。
 チョ「コミント「ココが大きくなって...」
 ...いだから...ご奉仕する...」
 俺もこの快楽には我慢できず、
 チョ「コミントの舌先に身を委ねていた。
 チョ「コミント「んっ...ちゅるっ♡」
 ...ヌルヌルしてる♡」
 コウ「うううっ！はあ...はあ...」
 このまま続けられたら...俺...」
 マカロン「ん？二人で何してるのー？」
 あまりの気持ちよさに
 意識を失いかけたが、目を覚ましたマカロンの声で一気に現実へと引き戻された。
 コウ「マ、マカロン！？これはだな...」
 こんな光景を見られて動揺している俺にマカロンがもじもじしながらすりよってきた。
 マカロン「二人だけであるい！マカロンもまざりたいよー」
 コウ「ええっ」
 マカロンが俺の亀頭を舐め始め、チョココミントが根元の部分を舌で優しくなぞっていた。
 マカロン「れるれる...♡すっごくビクビクしてる...もう出ちゃうの？」
 チョ「コミント「んんっ...♡ご主人様が気持ちよくなると私もなんだか...」
 モジモジしているチョココミントをよく見ると下半身のほうからうっすら液体が垂れ始めていた。
 コウ「チョココミントもフェラでえっちなスイッチが入っちゃったのか



びくっ!

ふふふふ

わろろろ

ははは

びくん

わろろろ

その様子に気づいたのがマカロンが
 チョコミントの湿りはじめていた
 アソコを舐め始めた。
 マカロン 「どうしたの?ご主人様の
 オチンチン舐めてただけで
 こんなになっちゃったの?」
 チョコミント 「そっ…それは
 ……はうん」
 ちよつと悪戯っぽく責めるマカロンに、
 チョコミントは抵抗もできず
 されるがままに局部を弄ばれていた。
 チョコミント 「ふあぁっ♡…はあ…
 っん…お…お返し…」
 マカロン 「ふにゃっ!尻尾は…
 尻尾はダメなのには♡ひゃああんん!
 チョコミントはマカロンのしっぽや
 胸を触り始めた。
 コウ(く)く…!…これは禁断の…
 ちゃっ、ちろちろっ、ちゃぽっ、たらっ
 お互いに性感帯と思われる箇所を
 ちろちろと舐めあい、弄る光景は
 まさに天国のようだった。
 マカロン 「にゃうん!そ…そんな
 ところ…ご主人様にも触られた
 ことないのになっ!びゃっ!」
 チョコミント 「べろっ…ソコが感じろ
 知っているから…んんっ♡」
 しっぽも、おっぱいも、アソコも…
 見ているだけで俺もどんどんおかしく
 なりそうだった。
 チョコミント 「どこで見ていないで…
 いっしゅに…おっしほしい…
 チョコミントは俺にもまざっほしい
 という眼で見えてきた。
 マカロン 「であっ♡ご主人様あー♡」
 チョコミント 「…一緒に気持ちいい
 こと…しよ…♡」
 その瞬間、理性のリミッターが
 完全に外れ、俺は二匹の身体に
 自分の舌を這わせていた。



「チョココメント」こ…今度は私から…」

「…チョココメント」

「そういうとチョココメントは自分から俺の肉棒を挿し込んでいった。」

「ぎちっ…べぶっ…」

「チョココメント」あふっ！もっ！大きくなってる…壊れそう…」

「は…にやあっ」

「チョココメントは俺のモノを小さい腔いっぱいにはぐえ込んで、腰を動かす。」

「コウ」チョココメント…好きだよ…」

「チョココメントのさっきよりもさらに硬く突起した乳首に舌を這わせた。」

「チョココメント」あああっうれしい…♡私も…好きっ♡」

「もにやっ！っ」と、背中に柔らかいものが押し付けられた。

「マカロン」私もご主人様のが欲しいよー♡」

「コウ」分かったよ…マカロンにも入れるぞっ」

「ずぶっ…」

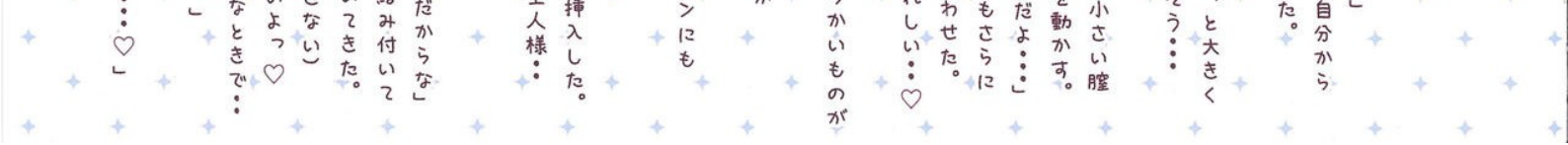
「今度はマカロンの後ろから挿入した。マカロン」んんんー！ご主人様…大好きー♡」

「コウ」俺もだよ…」

「ずっ！と好きだからな」腔内がキュッと締まって、絡み付いてくるので、俺も限界に近づいてきた。」

「コウ」くっ…もう我慢できない♡マカロン」出しこめ…♡いっしょ♡♡」

「ご主人様の好きなきまで…」





びびびびびび

びび

Am

びび

びび

びび

びび

「ロウ」マカロン「...チョココミント

...大好きだよ」

「マカロン」あ♡あ♡♡♡あ♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡

「チョココミント」わたしも♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡

「二匹の笑顔を見て気が緩んだのか、

我慢していた快感が濁流のごとく

一気に流れ出る。

どぶっ...びびっ...

びびるるるっ...!

マカロン 「んあっ...ああああ

あああんん!」

「チョココミント」あ...あっ!あああ

ああああー♡」

俺の精液がぐちゃぐちゃになった

腔内を白く染め上げていった。

2匹は熱いものが子宮に届くのに

あわせて、身体をビクビクさせていた。

「チョココミント」...こんなに...もう...

...ださずさう...♡」

「マカロン」おなかの中...♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡

俺は瞳だけでは収まらず、

2匹の可憐な顔にも

自分の精液をいっぱいにぶちまけた。

だよ...♡」



マカロン「んはっ！白いの……
いっぱい出たわね♡」

チョコミント「ネバネバして……それに……
ご主人様の臭いがする……」

コウ「ん……ごめん……あまりに
気持ちよかったから……つい」

急いで拭こうとしたが、マカロンが
自分についた俺の精液を舐め始めた。

マカロン「どうなくともいいよ！
ご主人様のミルクは全部
自分で舐めたいし」

チョコミント「ご主人様のモノで
キラいなモノなんてない」

コウ（くー……なんて可愛いんだー）
べろべろ舐めている姿を見ると今日も
頑張る気力が湧いてきた。

コウ「ん？今日？」
とても大事なことを忘れていたような
気がして、今日は何の日か
よく考えてみた。

コウ「あああああ——
——っ！」

チョコミント「どうしたの？
いきなり大きな声を出して」

時計を見るまでもなく、遅刻なのは
明らかだった。

一時間目は間に合わなくても、
せめて二時間目までにはと思いつながら
急いで制服を着た。

マカロン「おおっ！今日のご主人様は
朝から素早い！」

朝から素早い！



「コウ」悪いっ！これから学校に行ってくるから、ごはんは冷蔵庫にあるもので我慢してくれ！」

いつもは朝ごはんを食べるから出かけるのだが、今日は食パンだけ持って学校へ行くことにした。

「コウ」遅刻！遅刻ー！ー！ー！

「マカロン」いつまでっしやい！ご主人様チョココメント「曲がり角で転校生とぶつからないように

気を付けて……」

「ボタン」俺は急いでドアを開けて走り出す。

家に残った二匹は、というと……

「マカロン」「どういえばガッコウって

「チョココメント」「分からない……」

「ご主人様はそこで何をしているのか確かめる必要があるそう……」

END

PREFACE

『クラスメイトな猫』

2014年4月発行

黒猫なクラスメイトの『杏ココア』ちゃんのお話です☆
ちょっと小悪魔な感じの子です。

このころはちょっと大人っぽい絵柄にチャレンジしたくなってたみたいで、等身とかも今より高めですわ！塗りも新しい感じを模索中な感じがします～

学校の保健室ベッドってなぜか憧れだったので、保健室Hになっています(*´ω`*)



R18
Adult Only

くらす
メイト
な

あめのちゆき / あめとゆき
フルカラーイラストノベル
2014



んっ♡
んっ♡

んっ♡
んっ♡

んっ♡
んっ♡

んっ♡
んっ♡

ココアは慣れた手つきでアソコとおっぱいをクリクリしていたが、俺の方を見て動きを止めた。
ココア「…何ジロジロ見てるのよっ恥ずかしいから早く出て行ってくれない?」

コウ「いや…ココアの猫耳がかわいいなっ…」

猫好きの俺には不覚にも女の子のオナニーよりも黒髪に生えた猫耳がとて魅力的に見えた。

ココア「…」
「いきなり変なこと言わないでよ!そんなこと言うなら少しは協力しなさいよ!」

そう言っココアは俺をベットに押し倒しズボンをおろして股間をさすり始めた。

ココア「すごい…オチンチンっ」
「こんなに大きくなるものなのっ」

コウ「ちょ…マズイっ!」
「先生が戻っくるっ」

ココア「大丈夫よ…この時間はしばらく戻っこないっ知ってるから…」

剥き出しになったオレのモノはココアの小さな口では収まりきらないくらい大きくなってた。

ココア「んんっ ちゃっどあ…Hな汁いっばい出ちゃってるじゃない♡」

ココアは舌で亀頭の部分をペロペロしながら手で卒をしゃごいてた。

ココア「んう…れる♡あふ…ズズッ」
「ああ…そんなに勢いよく吸われると俺も反撃したくなっココアのマルマルになったアソコに指を入れようとした。

ココア「んっ!ドコ触ってるのよ?」
「ひゃう♡♡…あああ♡♡」

「すごい反応だ…ひゃっ♡♡とココアっものすごくHな子なのか…?」

人差し指で膣内を圧迫していると、指の付け根部分で触れていたクリトリスがビクビクしているのが分かった。

ココア「ひあああんん♡♡」



数回痙攣したあと、ココアは潤んだ目でオレの方を見た。

ココア「うー コウ君より先に イッちゃうなんて...」

まだ物足りないのかココアの尻尾が巻きついてきた。

コウ「ココア...」

本音を言うと俺も我慢ができなかった。

ココア「最後までほしいの...ダメ?」

コウ「...いいに決まってるじゃないか」

ココア「うん♡コウ君...」

私の初めて...受け取って♡」

ココアはそのままオレにまたがり やつくりと睨を落とした。

ココア「うっ!んんっ!っっっ...」

本当に...入っちゃった」

ココア「んっ♡...初めてのなに

入っただけでこんな感じちゃう

なんて...またイッちゃいそうっ」

オレは落ち着かせるためにココアの

手を握った。

俺が下から突き上げようとしたら、

ココアがやつくりと動き出した。

ココア「動いちゃだめ...」

私が...リードして...っコウ君の

精子たくさんもらうんだからあ」

奥にあたるたびにかわいい声を上げて

ココアはグリグリと睨を動かした。

ココア「ほんっ にゃあ♡」

気持ちいいよあ♡」

俺の方は限界を通り越し、いつ射精しても

おかしくない状況だった。

コウ「ココア...もう出すから

抜いてくれっ...」

ココアはその言葉を聞いてさらに

激しく動いた。

ココア「やだあ...中に出すのー♡」



「コオア「うそっ？また大きく？」
「コウ」だっ？コオアもその率のままっ？
「ことはもっ」としてほしいんだろ？」
「図星だったみたいでコオアは
赤くなって押し黙った。」

「コウ」「コオアとだったらいくらでも
続けたいー」

「コオア」でもっ！こんなに続けっ？

「されたっ！」

返事を聞く前に今度は俺がコオアを押し
倒してじゅるじゅるになったアノコに
挿入した。

「コオア」ひにやあーらめっ！ー

「強引すぎっ……だよあ」

「コオアはビクビクからだを震わせながら
抱きつこきた。」

「コオア」あああ……いっ……る……の……に……

「もっ」と欲しくなっさう……♡」

「コウ」「コオア！こんなのはどうだっ？」

オレは緩急や角度を変えたりして、腰を
動かした。

「コオア」この角度だと……あ……

「んちやんちやんちっ……」

「おま○こ挿さまわされちゃっ♡」

「コウ」「コオア……」

愛おしそうに巻きつごころるコオアの尻尾
を掴んで、じゅくじゅく引張っこみた。

「コオア」やんっ！っ！「ま……やめ……」

「さもちみすぎごだめえっ♡」

「っ！……また締め付けた」

「コオア」あうっ！わっ！わっ！

「いっ！「おちこだめっ♡」

「コウ」「コオア！俺もっ……」

「コオア」うんっ！……おこ……っ！

「ほっ！6ー♡」

「コウ」「コオア……っ！」



ココア「にゃっ…」

あ—————♡♡♡

びゃく〜びゃくくん〜

2度目は奥で出してしっかりと膣内に注ぎ込んだ。

ココア「また中に…あついのが…」

さるよあ♡んく♡♡

2回もしてしまったので、一瞬気が抜けずココアの胸の中に顔をうずめた。

(あ…すぐくやわらかい)

コウ「あれ…本当に元の姿に戻ってる」

ふとココアを見ると、人の姿に戻っていた。

ココア「言っただけよ。こうすれば大丈夫っ」

俺が賢者タイムに入っていると、ココアが擦り寄り寄ってきた。

ココア「おね？もっ…♡♡♡」

コウ「えっ？もう尻尾もなくなったし…」

それにそろそろ先生も戻ってくるんじゃない？」

(ないか？)と言いかけたオレの口を

ココアがキスで塞いでしまった。

ココア「まだ平気よ、コウ君となら…」

見られてもいいから」

そしてまたギシギシとベッドの軋む音が夕暮れの保健室に響き始めた…

食堂



(やばい！すっかり遅くなってしまった)
結局先生が戻ってきたのは、行為を終えた後だった。

ココアは先生が来る前に保健室から出ていった。

ココア「ありがとねっ また今日みたいななった時は……」

ココア「ん？何？……」
最後のほうがよく聞き取れなかった。

ココア「何でもない！また明日！」
ココアは早足で昇降口の方に向かっていった。

オレもすぐに帰ろうと思ったが、あれだけ運動したので少し小腹が空いてしまった。

ココア「……学食はまだやってるかな？」
この食堂は夕方まで余りの余りを売っているんで、帰る前に少し食べようと思って立ち寄った。

マカロン「コウだっ」
チョコミント「コウ……遅い……」

ココア「えっ……？」
(なんでココにこの二匹がいるんだ？)

確かオレがこの学校に通ってることは知らないはずである。

チョコミント「コウの匂いを辿っていったらここについた」

マカロン「おいしそうな匂いがしたから入ってみたー」

そうだった。家でじっとしていることなんてこれまでなかったじゃないか。

食堂のおばちゃん「ちよっとアンタ！

この子らの食べた分ちゃんと

払いなさいよ」

ココア「え……？」

(ただ食いしてたのー!?)

【続く…かも】



Trick or Treat!!

AmenochiYuki by Yuki Ameto 2013

PREFACE

『Usamimi♥Graffiti』

2016年11月発行

もふもふたれ耳うさぎのぶらんちゃん初登場の本です♪

ラフ本と合体だったので、短い漫画ですが

ぶらんちゃんの見え目とか性格とか、

ふわふわベレー帽とかお気に入り

その後ちゃんとした本を描きました(>ω<)!

寒くなってきた時期に、かわいい冬服のもふもふ

した女の子とあったかくなりたいな~と思って

描きました♡

Usamimi♥ Graffiti

Full Color Comic + Rough Illust Book
Ame nochi Yuki by YukiAmeto



R18
Adult Only!

わあ
もふもふ♡

クレーンゲーム
上手なんだね！
ありがとう♪

もふもふ♡

でも……こんな
でっかいヌイグルミ
持って買い物するの
大変だぞー

今日は彼女の
「ぶらん」とデート

ぶらんの家に置きに
行こうか？
ここから近いし

うん……いいけど
ちよつと
寄るだけだよ？

ふん

あ……
あんまりじろじろ
見ないで……
はずかしいよ

ドキ
ドキ

ぽんぽん

ふええっ?!
買い物行くんじゃない
なかつたの……?

終わったら
行くからさ……



くちゅん

くちゅん

ナカ……うずうず
しちゃうよぉ♡

えこ……
いじられると♡



くり

くりん

今日はお私がいれていいかな...?

んっ♡

はぁ♡

おはよう♡

ぐちゃぐちゃ♡

あ♡

はぁはぁ♡

うんかいいよ
なんかいつもより
積極的だね...

すみっ♡
すみっ♡

あ♡

付き合ってから
こんなにエッチに
なっちゃったんだよ...
責任とつてよ...おっ♡

あ♡

びっしょん♡



あッ♡あッ♡
あッ♡あッ♡

買った物より...
もつと
くつと
いたいかも♡

いっぱい
しちゃったね...

PREFACE

『メイドぶらんはいかがですか？』

2017年10月発行

このあたりから最近の感じになります！
秋色メイドのぶらんちゃん本です☆

銀髪と赤い目の子が大好きなのですが、
ワインレッドのメイド服と合わせたら
かわいくなったんじゃないかなと思います～

ぶらんちゃんはふんわりした性格なのですが、
うさぎなので大好きな人の前では積極的に
なるところもポイントです(*´ω`*)



メイ
に
ぶ
ら
ん
は
い
か
が
で
す
か
?
?

AME
NOCHI
YUKI
BY YUKI AMETO

Full color
Original book
R18
Adult only

休憩室

カチカチ

わあ〜！
おいしそ〜♪

休憩中に新作ケーキ
試食していいって

でも食べすぎると
この後も一緒に
シフト入ってるんだし



ん？
こっちも食べて
みたいの……？

やっぱり
かわいいなー



はーい このケーキ
おいし〜♡







うう…そんなとこ
あんまり見ないで…

もうこんな
濡らして…
ぶらんは
えっちな
ちだなあ



最後まで…
してほしいな♡

だつて…
好きすぎて
こうなっ
ちゃうん
だよ♡

はぁ♡



わかつた...
じゃあ挿れるよ

あーあー

ぐわん

ぐわん

んあーん

ぐわん！
ぐわん

ぐわん！
ぐわん

ぐわん

ぐわん

あ

ぐわん

ぐわん



ふあっ♡

あ♡ よかった...♡

びん びん

んあまあ♡

ぐちゅら!

きゅん

ちゅん

ずんずん ちゅん



きもちいい♡

ズンズン

奥まであたって♡



私の膣内... 気持ちいい?

あ♡

はあ

ふあ♡



ああ...すごくいいよ

んんん♡



ふぁあ
いっしょに
いっしょに
♡

ふぁあ

あ
もう……
いっっちゃうっ♡
あ

ふぁあ
あ
あ

ふぁあ
あ
あ

ふぁあ



ひええっ
今戻りますっ！

あ
ふた

休憩時間
過ぎますけど
大丈夫ですかー？

コン
コン
コン

PREFACE

『ふわふわお姉さんは好きですか?』

2018年4月発行

エクリュさんはぶらんちゃんのお姉さんで
とっても優しくふわふわのうさぎ耳の
女の子です♪

いっぱい癒されたいときに甘やかしてくれる
お姉さんがほしい・・・と思って描きました～

フルカラー漫画は塗りとか時間はかかりますが
やっぱり楽しくて好きなのでこれからも
描きたいです!

こちらのエクリュさん漫画は最初の描きおろしの
前のお話になっています♡

Full color Original book

R18
Adult only

ふわふわ
お姉さんは好きですか？

AME
NOCHI
YUKI
BY YUKI AMETO

うふふ♪
別にお礼なんて
いいですよ

きつとエクリュさんと
付き合う人は
幸せ者だろうなあ…

ふき

ふき

ご馳走様でした

ちゃんとした
ご飯を食べてほしい
だけですから

エクリュさん…
いつもおいしいご飯
ありがとうございます

近所のエクリュさんは
俺が子供の頃から
弟みたいにかわい
くれている
今でもこうして一人暮らしを
始めた俺に料理を作り
来てくれたりする

知キツ

えっ…
でも私…

キラ♡



...
さつきから
ぼーっとして...
何を考えてるんですか？

私のこと...
もつと見て...♡

もわ
もわん



♡
ここはお姉さんに
任せ♡

あの...私も気づいて
あげられなくて
ごめんなさい...



!
!!!

しまった!
妄想が抑え
きれなくて
つい...



こういうところまで
お世話したいんです……♡

駄目ですっ

ぷるん

エクリュ
さん……!
そこまでして
くれなくても……

しゅん
しゅん

ゼク
ゼク



もう……♡
本当に
おっぱいが
好きなんですわ
ん♡

エクリュさんが
こんなエッチな
下着つけてるから……

やっ……あまり
見ないで
ください

ここに来る時は
嬉しくて
つい……♡

もじ

もみ

ちゅん
ちゅん



はあ♡

びゅるっ
っっ!!

もう
出るっ……!

どくっ



あの……
もしよかったら……

びゅるっ

どくっ



こんなに出たのに
まだ大きく……

どくっ

はあ♡

どくっ

私にも...して
ほしいの...♡

力を抜いて...
エクリュさんが
痛かったら止めるから

アル

ん♡

はい...

アルッ

それと...
エクリュさん
じゃなくて
エクリュって
呼んで下さい

ちゅ♡

はい♡

分かった...
挿れるよ
エクリュ

ズンッ

ああ♡



もうっ♡
こんな時に
言うなんて
おるいっ♡

あ♡
エクリュ...
かわいいよ



んあま♡
気持ち...っ
いいですか
...?

だっ♡
嬉しくっ♡

んほ♡

エクリュ！
いいよ
名前呼ぶと
さらに
締まるっ...

ズクッ
ズクッ
ズクッ

ズクッ
お♡



あゝあゝ



エクリュ...
好きだよ

私も好き
大好きいっ♡



もう...
いつひゃうっ♡



モニョ

モニョッ

もっと奥まで...
突いてくださいっ♡

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

POSTSCRIPT

ここまでお読みくださりありがとうございました！

はじめてのオリジナル総集編ということで、
すごくなつかしい気持ちになりながら編集しました

はじめてのオリジナル本を出したときにいただいた感想が
うれしくて、ここまで描き続けられたんだなあとしみじみ
……応援してくださる方に感謝です(*´ω`*)

これからも看板娘やオリジナルの子たちを
いっぱい描いていきたいです

よかったらこれからもうちの子たちを愛でてくださると
うれしいです～！
twitterなどでもいつも感想など、とってもはげみになっています♡

ではではまたお会いできましたらうれしいです(｡v｡)

2019 あめとゆき

★FANBOXはじめました！
限定プレゼントやショップ
など企画中です



あめとゆきFANBOX
<https://www.pixiv.net/fanbox/creator/92891>

2019/12/30

発行人 あめとゆき発行 あめのちゆき

印刷 大中本印刷様

<http://amenochiyuki.blog43.fc2.com/>
rain18snow@yahoo.co.jp

本書の未成年の購読・無断転載・複製・
複写・アップロード等を禁止します

★Twitter でラフ掲載や最新情報の
お知らせなどしてます ID: @ameto_y
ピクシブでは新作絵などを
公開してます pixiv ID: 92891

♥ エクリュさん新作描きおろし漫画と
 【あめ のち ゆき】フルカラーR18
 オリジナル同人誌7冊を収録した総集編です♥



♥ 描きおろし エクリュさんと一緒にお風呂 ♥



Full color Original Comic